

やっときゃよかった、やってよかった防災式

もし明日、大きな災害に襲われると判ったなら「あなたならどうする？」をテーマに考えていきます。

◆シリーズ「あなたならどうする？」地震編パート2

大きな地震が明日襲ってくると判ったあなたはどのような行動をとるのでしょうか？

多くの場合「生き残ったことを大前提として考えるグループ」と「生き残るために何をすべきかを考えるグループ」の大きく2つのグループに分類されます。

生き残ったことを大前提として考えるグループは、食料に飲料水等の備蓄品の準備、火災が発生すれば消火、避難方法や避難所、職場や出先からの帰宅方法、家族との連絡方法、ご近所へ声掛けや災害時要援護者対策の確認等、自分自身が災害から生き残れたことを大前提として行動をとるグループです。

もうひとつの**生き残るために何をすべきかを考えるグループ**は、家具の転倒防止、家電の転倒転落防止、ガラスの飛散防止、食器類等の落下防止、避難路確保の為に家の中の片付け、自宅や職場の安全な場所の確認、家の補強、身を守る道具確認等、自分自身が災害発生時に身を守ることでできるような行動をとるグループです。

明日、災害がくるという短時間の対応方法ですが、このグループ分けは、車や設備等の保全方法に似たものがあります。「**予防保全**」と「**事後保全**」です。劣化が進む前、壊れる前に小まめに補修するのが「**予防保全**」です。一方、対症療法的に劣化箇所が壊れてから補修するのが「**事後保全**」です。

予防保全のほうが、事後保全よりも車や設備等を長持ちさせて更新時期を先送りすることができ、大掛かりな補修も抑えられるので、コスト削減につながると言われています。一般にはこのように考えられ、インフラの維持・補修は事後保全から予防保全へのシフトが進められています。マンションなどでは長期修繕計画をたて、計画的に修繕して出費を抑え不動産価値が下がらないようにする予防保全が当たり前になってきています。まとめると以下の通りです！

事後保全の問題点（故障発生の都度、修理を行う）

- ・事故が突然発生する
- ・修理のための時間が長くなる
- ・不意に多額の費用が発生する



予防保全の利点（故障する前に計画的に実施する）

- ・突発事故を減らせる
- ・故障時の停止時間を最短にする
- ・品質の安定化が図れる
- ・保全費が平準化される
- ・設備の延命化が図れる



えっ！判りにくいですか？では、判りやすく防災的に言い換えましょう。

防災的事後保全の問題点（災害発生後の対処）

- ・災害が突然発生する
- ・災害により命が危険にさらされる時間が長くなる
- ・日常の中に備えが無く不意に多額の費用が発生する

防災的予防保全の利点（災害発生前に対応）

- ・災害による怪我や死亡を減らせる
- ・災害による命が危険にさらされる時間を最短にする
- ・日常的な備えで安心が図れ、当たり前となる
- ・命の延命化が図れる

こんなに差があるにも関わらず「事後保全」が当たり前で正しいかのように行われているのが防災活動の現状です。防災の最優先は何なのか？答えは「人が死なないこと」です。なのに多くの人は、自分はスーパーマンであり、災害が発生しても絶対に死なないと思い込んでいます。そして、災害がひとたび発生すれば、災害時要援護者対策、被災地へボランティア、義援金等と「私は死なないんだ」と常に上から目線で防災・災害対策をする人が多い。行政でも同じことが言え「被災者生活再建支援法」で、災害発生後に手厚い行政支援をしますよと言われても、生き残った人達を支援する制度であって、あなたの大切な人の命は生き返らせてはくれないのです。ましてや行政の設備や機能という公を支える人達もスーパーマンであり、私たちは絶対に死なないで支援できるという大前提での話でもあるのです。

勘違いしないでくださいね。決して、各種支援、ボランティア、義援金を否定しているわけではありません。これらも素晴らしい活動です。けれど、限られた時間の中で大切なことは、市民も行政も、**第一に「人が死なないこと」** **第二番目に「生き残った人にサポート」**ではないかということです。

過去の災害では多くの尊い命を失いました。この方々が一番無念に思われていることは「こんな災害で死にたくなかった」ということです。言い換えれば「生き続けたかった」。私たちはこの声を心で聞き、その言葉を活かし「命」という尊い期限付きの借り物の時間内で**防災的予防保全**を行い、次世代に防災文化を継続継承させる必要があります。

私たちにできることは「自分の大切な人の命を守る」そのために「自分は死んではいけない」。そして自分の大切な人を守るための防災文化「自助努力と近助努力」をやりましょう。千年に一度の災害対応法も大切、更に千年へと続く継続可能な防災文化を創ろう。そうすれば、千年に一度の災害が来ても「やってよかった」と当たり前に対応できるようになるのです。

ヒントは「みんなで楽しく防災文化を創る！」これが今回の「防災式」です！